



# 早良組 だより

さあ、  
法事の話をし  
よう。

父は私が三歳の時に亡くなりま  
した。ですから母が女手一つで育  
てくれたんですよ。  
その時祖父も一緒に住んでいま  
したが、朝は祖父の勤めるお正信偈の  
声で起きていました。目を開いたら、  
蠟燭が綺麗に二本立っててね、おじ  
いちゃんが「帰命無量寿如来、南無不  
思議光」とお勤めを始める。お勤  
めが終わると、御文章が入った御文  
章箱を両手で大事そうに頂いていま  
した。当時はあの黒い箱の中にはど  
んな宝物が入っているんだろうと幼  
心に思ったものです。本当にお宝が  
入ってましたね。今核家族が増えて

## 宝物が入ってました



## お念仏とともに

～有吉かずえさんに聞く～

「昔は誰かの背中から学んだも  
んだ」そんな言葉を先人から聞いたこ  
とがあります。親の背中、先輩の背  
中。すべてを一から教わる訳でもな  
く、誰かの背中から伝えていただ  
くものがあつたように思います。もち  
ろん、それだけが教育ではありません  
んが、背中からしか伝わらないもの  
が確かにあるような気がします。  
今回、お念仏と共に人生を歩ん  
でこられた方のお背中を拝見させてい  
ただこうと思ひ、明性寺のご門徒・  
有吉かずえさんにお話をうかがい  
ました。

来ていますが、これは残念ですね。教  
えられなくても、親や祖父母の姿を  
見たり聞いたりして伝わっています  
たが、今はそれが難しい。核家族は惜  
しいなと思います。

## あんなおばあちゃん に早くになりたい

小さい頃はおばあちゃんについて  
お寺に行っていました。学校から帰っ  
て急いでお寺に行くこと、ご門徒のおば  
あちゃんたちが七輪に手をかざしな  
がらお話をされていました。息を切ら  
してお寺に着いた私は、こんなにゆっ  
くりお寺にお参り出来るおばあちゃん  
達に早くになりたいなと思つたもん



## 平和を願う 念仏者のつどい

6月19日 百道パレス大ホールにて



## 夏の思い出をお寺の友達と

平成26年度早良組子ども夏の集いでは、大分県久住コ  
テージへ行きました。城島高原パークでアトラクションを  
楽しみ、夜には満天の星空を眺ながら星空観察。初めて  
聞く星の話に子供たちも興味津々。翌日にはとうもろこし  
狩りを体験し、初めて生で食べるととうもろこしの甘さに  
びっくり!どきどきしながらの乳搾りも体験して、充実した  
二日間となりました。



とうもろこし狩りにて、農家の  
方の話を真剣に聞く子供たち



城島高原パークにて

近年の核家族化などの影響で子供がお寺にお参りする機会がずいぶん減っ  
てしまったように感じます。そこで浄土真宗本願寺派ではキッズサンガと称し  
てより多くの子供にお寺を身近に感じてもらえるようさまざまなイベントを催  
しています。私たち早良組でも毎年夏休みに「子ども夏の集い」を企画して  
おり、今回は久住高原コテージでキャンプに行ってきました。来年は京都を予定  
していますので、皆様の参加をお待ちしております。

## キッズサンガってどういう意味?!

キッズ(kids)は「子どもたち」、サンガ(sangha)は「仏教徒の集団」の意味があり  
ます。これをあわせた造語で「お寺に集う子どもたち」という意味で名付けました。



## ヨガ de はじまる お寺の「縁」

早良区重留の浄覚寺では、第1、第3木曜日の10:00～11:30まで、  
「お寺 de ヨガ教室」を開講しています。  
門徒の方はもちろん、今までお寺に縁のなかった方も、  
はじめてお寺に足を踏み入れるきっかけになっているようです。  
先生はヨガ歴30年以上のベテランで、初めての方でも無理なく参加できます。  
慌ただしい世の中であるがゆえの、ゆったりと落ち着いた時間と空間を、  
深い呼吸法と共に体感してみませんか。  
(参加費: 1回 1,000円) お問い合わせ: 浄覚寺 (092)804-2828



## 早良組ホームページが 開設されました。

組内向けの情報や、寺院にご縁のない  
人々に向けての情報、また、ご法義の  
発信という役割も期待しています。  
皆様のご活用と、温かいご支援のほど、  
宜しく願い申し上げます。



<http://sawaraso.com>

早良組

検索

## 取材募集のお知らせ

「早良組だより」をお読みいただきありが  
とうございます。早良組だよりの編集部で  
は、本誌に掲載する記事を大募集して  
おります。お寺での活動・取り組みを取  
材させていただきませんか。お問い合わせ  
は下記まで。お電話お待ちしております。

栄福寺内 ☎851-9656



です。ほんとにそんなおばあちゃんになりましたね。

私は小さい頃からお聴聞が大好きでした。どこに行くよりも好きで、こまでもお聴聞に行きたいんですけど、今は身体が言う事をきかなくなってきました。元気なうちにご縁にあつていた方がいいですね。

阿弥陀様のおはからいのすばやいこと。ほんとに今、そう思います。阿弥陀様が、この子にはお念仏に出遇わせなければ、人生真つ暗になるからと、私が求める前からご用意して下さいましたね。私も願われて生まれて来たんやなと思います。

### 「恩徳讃をこのみて うたう母の声」

私が四十歳を過ぎた頃、主人は四十九歳で亡くなりました。転機と言えは転機です。その頃から詩を作り始めました。初めて作った詩が『大乘』に載って、そこからたくさん詩を作りました。そのときの詩がこれです。



「ただいまの声も弾みて帰り来る 朝配お(終)えし 吾子はれやかに」

詩というのはいいですね、その頃の情報がい出されずから。家事に追われて忙しい中で息子達が新聞配達を終えて、元氣よく帰ってくる、その「ただいま」のひと声に励まされていました。そんな詩を思い出していたら、涙が出そうになります。

「お陰さまやね」と思いますね。このお念仏様のお智慧にお会いできたから、メソメソでいいですもんね。悲しいときは悲しいなりに、嬉しいときは嬉しなりにね、お陰さまやねと思つてます。しかし、悲しいご縁に合わないところから、世界があります。阿弥陀様のお慈悲は深い悲しみに出遇つて

## 一問一答 教えて浄土真宗

### 法事編



これはいつも思うのですが、親鸞聖人のお伝え下さったものが英語だったら私には分かりません。こう味わえていたか分かりません。親鸞聖人が日本にお生まれ下さって、そして私も日本に生まれた。日本の国に生まれさせていただいて、本当に良かったなと思えます。おじいちゃんや、おばあちゃんのおかげですね。

その伝えて下さったお聖教を大事にいただかないといけませんね。今は情報が多くて、お聖教を読む時間が、他のこと

前回からはじまりました、シリーズ「一問一答」。今回は皆さんが家庭でいともまれる一番身近な仏事「ご法事」について、徳勝寺の角住職にお話を聞きました。

**Q 角住職** 「ついでに」と言うことですか？

ご法事は「ついで」ではありません。昔は法事といえば一大行事でした。法事があるから畳替えしようとか、襖・障子を替えよう、なかには祖父が建てた家だから祖父の法事に合わせて屋根替えしようなど、亡き人を縁とした大きなイベントでした。親戚も休みをとって泊まりがけで来られていました。

最近では法事がおろそかになってきたような気がします。周り(親戚)に迷惑をかけたくないからわずかな身内だけでとか、ひっそりおこないますとか言われますが、どうもその根底には法事に對するご自身の煩わしさが見え隠れしているように思われます。

大切なことは「大事(おおごと)」なんです。大切なことだから大変なんです。大切なことは「大事(おおごと)」に勤めさせていたがたいですね。しかしこれは何も豪華にした方が良くないってわけではあります。人が生まれ、死んでいくということはまさに「大事(おおごと)」なことです。大切な命をご縁としたご法事に、お一人お一人がきちんと向き合っていられることが大切ではないかと思えます。

**Q お位牌は必要？**

**角住職** お位牌といいますが元はといえば中国の儒教の考えから来る死者の「記録板」です。結論を言いますと、お位牌を礼拝の対象にしない真宗では必要ではありません。ご本尊の阿

はじめてわかるのかもしれませんが。不思議ですね、これは。人には分かりませんが、自分で喜ばせてもらっている世界は人には分からない。言つて分かるものじゃない、自分で感じるしかないですもんね。しかし、みんなの上にこのおはたらきはあられるわけですが、みんなのお念仏を喜んでくださったらなと思えます。

### 日本に生まれて良かった

これはいつも思うのですが、親鸞聖人のお伝え下さったものが英語だったら私には分かりません。こう味わえていたか分かりません。親鸞聖人が日本にお生まれ下さって、そして私も日本に生まれた。日本の国に生まれさせていただいて、本当に良かったなと思えます。おじいちゃんや、おばあちゃんのおかげですね。

その伝えて下さったお聖教を大事にいただかないといけませんね。今は情報が多くて、お聖教を読む時間が、他のこと

弥陀様のおすくいにし出遇うご縁のお名前が書いてあるのです。ですから過去帳にお名前を書いて、普段は仕舞っておきます。そして法事やご命日の際に表に出します。

注意をしていただきたいのですが、浄土真宗はお位牌ではなくて過去帳でいいですよ、とお聞きになると思いますが、過去帳も礼拝の対象ではありません。重ねて申しますが、私が阿弥陀様のおすくいにし出遇うご縁のお名前が書かれているのです。

**Q 納骨はどのタイミングで行えばいいのですか？**

**角住職** 納骨をいつしなくてはいけないかは、決まっています。ただ四十九日や初盆など、縁者がたくさんあつまる時に、納骨を縁として皆さんが仏法に出遇わせていただくことが大切です。

日本には埋葬法という法律があり、必ず納骨ないし埋骨をしなければいけないという決まりがありますが、こちらもいつまでにしなくてはいけないという期限はありません。

**Q 一周忌と三回忌はどんな数え方？**

**角住職** おそらく三回忌以降は数え歳で見ているのでしょ。

一般の仏教では、百ヶ日までは『十王経』というお

に取られている気がします。一言一句大事にいただきたいですね。

### 阿弥陀様の願いを聞く

ご縁つて不思議だな、つて思いますが。本当に不思議。阿弥陀様は私の心を知っていてくださいます。私の知らないお心まで知っていてくださいます。そして導いて下さいます。

しかし阿弥陀様のお心は、ご法話などを聞かないと分からないですもんね。ご法話はつとめて聞かせてもらつたほうがいいですね。阿弥陀様の願いを聞いていくということは、何よりも大事なことでないかと思えます。

#### 【編集後記】

昔、京都の本山に参拝された時、種が落ちて発芽した紅葉をいただいて帰られたそうです。大事に持ち帰られた紅葉が、お庭で大きく育つていて「うちは本願寺さんの香りがするのよ」と嬉しそうに仰っておられました。

阿弥陀様のお救いのど真ん中に私がいた。その阿弥陀様と共に、お念仏と共に生きておられる。今回、そんなお背中を見せていただいた気がします。本願寺の紅葉が薫る部屋の中で。



経などを基本に考えられています。いわゆる閻魔大王が出てくるお話です。亡くなられた方は、四十九日までの間、一週間ごとに閻魔様や他の裁判官より裁きを受けるというお話です。しかし一周忌と三回忌の数え方などについては、経典の上には見受けられません。おそらく中国の儒教の影響によるものと思われる。

浄土真宗では、『十王経』や儒教の教えは用いませんが、一般の仏教の風習に準じて真宗的な味わいをいただき、ご法事をいとむのです。

**Q 法事の御斎の意味は？そしてお精進がいいのですか？**

**角住職** 山本仏骨和尚がこのようにことを仰つておられました。「利井鮮如和上にある人が「凡人は魚を食べたいとおもすが、心にそんなことを思いながら、形だけ食べないのでは、精進にならないでしょう」と言ったとき、和上は「食べたいのに、こらえて食べないことが、精進のいつたんじゃ」といわれています。

要するに真宗では精進するのをご恩報謝の行いですが、せめて父母縁故の命日をご縁として、生命に対する感謝を心がけ、身や心を慎んで、仏法を味わいながら過ごすことは、有り難いことだと思います。まさにその通りだと思います。

**Q そもそも法事は何のため？誰のため？**

**角住職** 浄土真宗で「法事」という言葉を使うときは、「仏法事」(ぶつぽうごと)の略です。先立つた方のいのちを縁として、私が仏法に出遇うために勤めさせていただくのです。死者に対して功德を施すということではありません。

**Q 法事ではどこまでの親戚を呼べばいいのですか？**

**角住職** これはお坊さんが関与する問題ではありません。しかし、本来ご法事は親戚だけでしか勤めないという考え方はありません。

例えば「法供養」という風習がまだ早良にも残っていますが、地域の方を呼んで法事をいとなみ、近所の皆さんと仏法を慶ばれるのです。友人・知人を呼ばれる方もいますし、ご法事を縁として、どなたに仏様のお法(みのり)に出遇つてほしいと思われるか、ご遺族の想いによって決められたら良いのではないでしょう。

**Q 命日が近い二人を合わせて法事してもいい？**

**角住職** お位牌といいますが元はといえば中国の儒教の考えから来る死者の「記録板」です。結論を言いますと、お位牌を礼拝の対象にしない真宗では必要ではありません。ご本尊の阿

